

令和5年度 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 報告書

運営委員会

- 【委員長】 高山 理恵 (岡谷市社会福祉課)
【副委員長】 北原 由紀 (ゆらり相談支援センター)

【役割】

- ・協議会の企画・提案を行うとともに、部会や地域関係者からの課題を整理し、検討、調整する。

【開催日と協議内容】

第1回 5月18日(木)

- ・各部会、委員会 令和4年度報告／令和5年度計画と予算
- ・オアシス業務継続に係る経過報告について
- ・令和5年度フォーラム実行委員会について
- ・オアシス相談支援事業 評価シートについて
- ・日中サービス支援型グループホーム評価について
- ・障害者差別解消地域協議会について

第2回 7月20日(木)

- ・オアシスの在り方について(次期指定管理者決定のロードマップ)
- ・長野県自立支援協議会全体会の報告
- ・強度行動障害WG報告
- ・相談支援部会報告

第3回 9月21日(木)

- ・医療的ケア児等総合支援事業について
- ・自立支援協議会の在り方について
- ・全体会の内容について
- ・地域生活支援部会について
- ・医療的ケア部会について

第4回 11月2日(木)

- ・全体会議について 部会・委員会中間報告
- ・第7期障がい福祉計画・第3期障害児福祉計画について
- ・地域生活支援拠点等事業実施要綱等について

第5回 1月18日（木）

- ・児童の相談支援体制について
- ・基幹相談支援センターの在り方検討委員会の設置について
- ・フォーラムの在り方について
- ・消費税の取り扱いについて

第6回 3月21日（木）

- ・令和6年度啓発・周知活動（フォーラム）について
- ・自立支援協議会の在り方を人材育成委員会で協議することについて
- ・運営委員会へ主任相談支援専門員の代表者が参加することについて
- ・令和6年度 地域生活支援部会について
- ・児童の相談支援体制について
- ・強度行動障がい児・者への今後の取り組み

【まとめ・次年度へ向けて】

- ・基幹相談支援センターの在り方検討については、次期指定管理者決定までのロードマップに従って実施した、意見交換等の結果を受けて、運営委員会で方向性について協議・調整を行い、在り方検討委員会で協議することが決定した。
- ・令和6年度報酬改定に伴い、国から各分野に関して通知やガイドラインが示されたことから、それらを参考にしながら、これまでの協議の経過を活かして、諏訪圏域の将来を見据えた持続可能な体制づくりを目指す。
- ・地域生活支援部会はいったん休会とし、地域の課題整理や優先順位の検討、当事者や家族の思いを反映させる方法等については、運営委員会で預かり検討していく。
- ・各市町村の障害者福祉計画や障害福祉計画の進捗分析や検討に関し、連携して取り組む。

地域生活支援拠点事業推進会議

- 【会長】 大澤 英恵（オアシス）
【副会長】 藤巻 和彦（はらむら悠生寮）
清水 利恵（茅野市地域福祉課）

【協議目標】

- ・高齢化や重度化、障がい福祉サービス等のニーズや課題に応じて、求められるサービスが提供できるよう機能強化に向けて、様々な関係者が知恵を出し合い地域づくりをすすめる。

【委員会開催と活動内容】

第1回 全体会 7月21日

- ・取り扱い要領、要綱についての確認
- ・地域体制強化共同支援加算について
- ・体験の場について

第2回 全体会 10月25日

- ・地域生活支援拠点等事業実施要綱、要領についての確認
- ・地域体制強化共同支援加算について
- ・1人暮らし体験の場について
- ・登録台帳見直しについて

第3回 全体会 2月26日

- ・次年度の活動計画と連動表について
- ・諏訪圏域における拠点等の機能と想定される担い手について
- ・新年度の体制について

第1回 強度行動障害 WG 4月14日

- ・3グループに分かれての検討（研修、医療・制度、人員・設備課題検討）

第2回 強度行動障害 WG 6月20日

- ・3グループに分かれての検討（研修、医療・制度、人員・設備課題検討）

第3回 強度行動障害 WG 9月12日

- ・再編した2グループに分かれての検討（拠点づくり、ネットワーク作り）

第4回 強度行動障害 WG 11月21日

- ・強行センターのイメージ図の共有
- ・2グループに分かれての検討（拠点づくり、ネットワーク作り）

第5回 強度行動障害 WG 2月14日

- ・2グループに分かれての検討（拠点づくり、ネットワーク作り）

第1回 ひとり暮らし支援 WG 1月12日

- ・意見交換「一人暮らしを支えるにあたり課題と感じていること」

第2回 ひとり暮らし支援 WG 3月11日

- ・意見交換から出された課題についての協議・検討

第1回 困難事例検討の仕組みづくり 9月26日

- ・困難事例についての意見交換

第1回 コアメンバー会議 2月7日

- ・現状の確認
- ・2/26 会議に向けて
- ・次年度役員について

【評価及び今後の課題】

- ・今年度の緊急時受け入れの実績は6件。内容としては家族間、夫婦間のトラブルから緊急受け入れの利用となった。虐待通報からの緊急避難場所として拠点を利用した。その後ショートステイに切り替わり相談員が計画を作成する事案があったが、虐待通報の流れであるにも関わらず相談員が主で動く事でいいのか課題は残る。
- ・強度行動障害児者 WG がスタートし、現在強度行動障害 Co 配置に向けて積極的に議論が進んでいる。
- ・ひとり暮らし支援 WG がスタートをし、ひとり暮らししている人、これから考えている人の支援を考えて行く。
- ・諏訪圏域地域生活支援拠点等の機能を担う事業所認定手順（フロー）を整理し見やすい形にした。また、フローの作成をきっかけに拠点等事業の体制整備を進めるうえで要領の見直しについて検討する必要があるとし、今後事業の実施主体である市町村が中心になり要領改正の検討を進めている。
- ・拠点事業等の整備に必要な①相談支援、③体験の場・機会、④専門的人材の確保・養成について、今後も引き続き取り組む。

【決算】

円

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
今年度予算	35,000			
研修実施費用		15,020		講師謝礼
合計	35,000	15,020		
当期残額			19,980	

(令和3年3月31日現在)

人材育成委員会

- 【委員長】 大澤 英恵 (オアシス)
【副委員長】 中村 修 (ゆらり相談支援センター)
今井 慎二 (下諏訪町保健福祉課)

【協議目標】

諏訪圏域の相談支援体制を検討し、その体制整備に必要な人材をどう育成するか検討する。

令和6年度から施行される改正障害者総合支援法、福祉計画の改正、報酬改定を見据え、必要な体制作りに寄与する

【委員会開催と活動内容】

第1回 4月19日

- ・4月からのオアシスの体制と業務分担の検討の方向性について
- ・諏訪圏域の相談支援体制整備に向けた検討の方法について

第2回 7月28日

- ・R5年度諏訪圏域人材育成（研修会など）について
- ・長野県相談支援従事者人材育成ビジョンと諏訪圏域との連携について
- ・長野県相談支援従事者 主任研修受講者の推薦について
- ・諏訪圏域の相談支援体制整備に向けた検討の方法について

第3回 10月2日

- ・令和5年度新任職員研修会について
- ・アウトリーチ結果に対する、今後の方向性

第4回 1月9日

- ・主任相談支援専門員の役割・在り方について
- ・自立支援協議会の役割・在り方について

第5回 3月4日

- ・主任相談支援専門員の役割・在り方について
- ・自立支援協議会の役割・在り方について

【評価及び今後の課題】

- ・委員会の4つの柱である基幹センターの在り方・委託の在り方、主任相談支援専門員の在り方・自立支援協議会の在り方について意見交換をすることができた。

- ・ 基幹の在り方については、在り方検討委員会を立ち上げ、第1回目が終了している。
- ・ 主任相談支援専門員の在り方については、基幹の在り方の方向性が見えてきた所で、改めて協議をしていく事となった。
- ・ 協議会の在り方については次年度も引き続き協議をしていく。

【決算】

円

科 目	収入額	支出額	差引金額	摘 要
今年度予算	52,000			
新任職員研修	13,000			参加費
		3,055		事務消耗費
		44,458		資料コピー代
合計	65,000	47,513		
当期残額			17,487	

(令和6年3月31日現在)

権利擁護委員会（障害者差別解消支援地域協議会）

【委員長】 小松 憲一（諏訪市社会福祉課）

【副委員長】 北原 由紀（ゆらり相談支援センター）

【協議目標】

- ・「障害者虐待防止の更なる推進」にて義務化された項目について、実施状況の把握と課題への検討
- ・障害者虐待防止と終結までのプロセスの確認と実践に向けての協議
- ・障害者差別解消支援地域協議会の活用への取組み
- ・

【委員会開催と活動内容】

第1回 8月7日（月）

- ・成年後見支援センターからの報告
- ・成年後見制度個別相談会について
- ・今年度の活動について協議
- ・虐待防止・虐待通報についての現状と課題
- ・差別解消・合理的配慮の現状と課題

○ 7月 県権利擁護部会 虐待防止等に関する各機関の課題報告

○ 8月 県権利擁護部会 虐待防止に係る情報交換、差別解消に関する課題報告

○ 令和5年度罪に問われた障がい者等支援研修会

日 時：11月8日（水）午後1：30～3：30

会 場：諏訪市総合福祉センター

講 師：長野県地域生活定着支援センター長 石川貴浩氏

参加者：36名

○ 障がい者の性と権利講演会

日 時：11月11日（土）午後1：30～3：30

会 場：諏訪市総合福祉センター

講 師：東洋大学福祉社会開発研究センター客員研究員 門下祐子氏

参加者：42人

第2回 R6年1月29日（月）

- ・今年度活動の振り返りと来年度へ向けて
「罪に問われた障がい者等支援研修会」振り返り

- ・ R4 年度虐待通報の現状と課題
- ・ 障害者差別に関する相談の現状と課題

【協議内容のまとめ】

- ・ 委員会は 2 回、権利擁護に関する研修会は「罪に問われた障がい者等支援研修会」と、地域生活支援部会との共催で「障がい者の性と権利擁護」を開催した。
- ・ 「障害者虐待防止の更なる推進」で義務化された項目についての実施状況は、各市町村が把握している状況について共有を図った。
- ・ 長野県権利擁護部会の報告を行い、長野県の動きとの連動について共有を図った。
- ・ 虐待対応については市町村の対応状況、虐待判断の有無について共有を図った。特に虐待判断しなかった場合の支援については、相談支援専門員やサービス提供事業者等と協力しているとの報告があった。
- ・ 差別解消に関しては、市町村内で対応したケースについて共有を図った。
- ・ 情報共有を通して、圏域内での権利擁護に関する課題が明らかになってきた。

【評価及び今後の課題】

- ・ 権利擁護に関する研修が 11 月に集中しており、研修の日程調整が必要である。
- ・ 虐待対応に関しては、各市町村が法に基づいた対応をしている報告があったが、虐待と判断されない事案については、行政と支援先である相談支援専門員・サービス提供事業者間に認識等のズレが生じている。
- ・ 差別に関しては各市町村内での対応にとどまっている。「合理的配慮」「差別」だけでなく「環境整備の未実施」についても確認する必要がある。
- ・ 各事業所からは虐待防止研修の希望もでていますが、各事業所で実施できない事情の把握には至っていない。
- ・ 課題の把握が中心であったため、次年度からは具体的な取り組みを行う。

【決算】

円

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
今年度予算	50,000			
研修会費		31,122		講師謝礼など
合計	50,000	31,122		
当期残額			18,878	

(令和 6 年 3 月 31 日現在)

令和5年度 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 専門部会 報告書

療育支援部会

【部会長】 坂本 由紀子 (信濃医療福祉センター 諏訪圏域療育コーディネーター)

【副部会長】 守屋 康子 (長野県立花田養護学校)

神戸 希代江 (富士見町教育委員会こども課)

【今年度の協議目標】

- 諏訪圏域の子育て期の課題解決の方向の検討
- 「第2期障害児福祉計画」に対する取組みの検討
- 保護者・支援者の知りたい情報を把握し、情報提供と研修会の企画

【部会開催と活動内容】

☆療育支援部会

第1回 令和5年4月18日(火)

- 今年度の計画について
- スキルアップ研修について
- 第2期障害福祉計画について
- グループワーク

WG①放課後等デイサービス・保育所等訪問支援事業の体制整備について

WG②児から者への切れ目のない支援体制整備について

WG③支援・相談窓口等の周知について

第2回 令和4年7月4日(火)

- スキルアップ研修会『発達障がいのある方に寄り添う疑似体験プログラムと支援方法』

講師：長野県発達障がい情報・支援センター 副センター長 宮内かつら先生

第3回 令和2年9月15日(金)

- ミニ研修『長野県発達障がい情報・支援センターについて』

講師：長野県発達障がいサポートマネージャー 茅野 進 氏

- スキルアップ研修会の振り返り
- 児童発達支援事業の法改正について
- 課題ディスカッション『子どもの支援体制：不登校支援について』

第4回 令和4年11月28日(火)

- ミニ研修『子ども時代に大切にしたいこと』

講師：長野県発達障がいサポートマネージャー 茅野 進 氏

- 課題ディスカッション『子どもの支援体制：不登校支援について』のまとめ
- 課題ディスカッション『子どもの支援体制：児から者への切れ目のない繋ぎについて』

第5回 令和4年2月20日（火）

- 課題ディスカッション『子どもの支援体制：児から者への切れ目のない繋ぎについて』のまとめ
- 今年度のまとめと来年度の計画について

【協議内容のまとめ】

- 今年度のスキルアップ研修は、対面で実施が可能になったことで『発達障がいのある方に寄り添う疑似体験プログラムと支援方法』と題し、発達障害のある子どもが生活の中で感じている困難さやそれに伴う感情を心理的疑似体験を通して学ぶことが出来た。参加者の感想も「体験することで相手の気持ちがよりわかることを知り、社会で生きていくうえで大切なことであると実感した。」「具体的な支援方法を学べた。」など高評価であった。
- ミニ研修は、部会員の回数を増やしてほしいという要望があり、長野県発達障がいサポートマネージャー 茅野 進氏に2回お願いしお話が聞けたことは、情報提供の場にもなり良かった。
- 昨年度のワーキンググループ（WG①放課後等デイサービス・保育所等訪問支援事業の体制整備について、WG②児から者への切れ目のない支援体制整備について、WG③強度行動障がい児の受け入れ態勢について、WG④支援・相談窓口等の周知について）については、まとめを行い、今年度は部会全体で『子どもの支援体制：不登校支援について』と『子どもの支援体制：児から者への切れ目のない繋ぎについて』を部会全体でディスカッション行った。

【評価及び今後の課題】

- スキルアップ研修は、支援者や保護者への重要な情報発信である。参集で開催できたことは良かった。実際に体験できたことで日々子どもへの対応の一助になったと考える。今後も支援者及び保護者のスキルアップが出来るように研修会を企画していきたい。
- ミニ研修は、情報提供の場として重要と考える。部会員の要望も高く今年度は2回実施できたことは良かった。今後も部会員の要望を聞きながら企画していきたい。
- 今年度は、子どもの支援体制について全体でディスカッションを行った。課題が多岐にわたり難しく、課題解決にまでは至らなかったが、来年度も引き続き検討していきたい。

【決算】

円

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
R5年度部会費	50,000			
スキルアップ研修会費		5,200		7/4 講師接待
合計	50,000	5,200	44,800	

(令和6年3月31日現在)

令和5年度 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 報告書

地域生活支援部会

【部会長】 佐藤 恵（富士見町地域活動支援センター）

【副部会長】 松井 陽介（Social Lab Globe）

井上 成美（森の工房あかね舎）

金子 宏美（原村保健福祉課）

【協議目標】

- ・ 事業所間のネットワークづくり、情報共有の場を作り地域全体の支援力を高める。
- ・ 第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画に基づいた調査や検討を行う。

【部会開催と活動内容】

<部会>

○第1回 令和5年5月2日（火）参加者 25名

内容：令和4年度の活動報告。

施設入所者の地域生活への移行の検討について

令和5年度の事業計画の確認と承認

○第2回 令和5年8月10日（木）参加者 23名

内容：「施設入所者の地域生活への移行に関する検討について」

福祉計画に沿っての課題を協議。施設入所希望者の待機状況を知り検討をおこなうために、6市町村へ聞き取り調査を実施。調査結果を踏まえ、なぜ地域生活が困難なのかをグループワークで意見交換を行った。

○第3回 令和5年11月22日（水）13：30～参加者 29名

内容：令和5年11月11日におこなった「障害者の性と権利」の講演会動画視聴

○第4回 令和6年2月28日（水）13：30～参加者 20名

内容：来年度の部会について

意見交換

地域生活支援部会は参加者やテーマが広範囲に渡り、課題が多岐にわたるという現状を踏まえ、意見交換を行った。

- ・ 自分に関係のない課題への参加が難しい。
- ・ 特定の課題に特化したワーキンググループの検討が有効である。
- ・ 部会の進行方法についての見直し（部会で検討するテーマや資料を事前に通知するなど情報共有の改善）
 - ・ 部会の役割と目的の明確化、部会員の参加と人数の見直し
 - ・ 協議会としての機能が十分に発揮されていないので、協議会全体の在り方の見直し

が必要。

などの意見があり、協議会全体での検討が必要との提案が出された。

<講演会・研修会>

○「障がい者の性と権利」の講演会（権利擁護委員会と共催）

日時：令和6年11月11日（土）午後1：30～3：30

講師：東洋大学福祉社会開発研究センター客員研究員 門下裕子先生

参加者：当日42人、延べ71名

アンケート結果：講義の理解度は5点満点で最も多かった評価は5点で32人。

「性やセクシュアリティについての知識が十分に浸透していないため、正しい知識を教えられる包括的な支援が必要だと感じた。」「障害者の性についての理解を深め、支援の視点を変えることの重要性を認識した。」「からだの権利」の尊重という新しい視点が提供され、自分たちの偏見やバイアスに気づいた。」との感想が多く寄せられた。

<グループホーム連絡会>

○第1回 令和5年7月21日（金）参加者16名

情報共有

「食事について」

- ・提供の形態、単価、工夫を各事業所から情報をいただき意見交換をした。

「避難訓練、災害時対応について」

- ・聴覚障害の方の避難訓練どうされているのか

- ・市町村が行う総合訓練に参加した地域とのつながりをもちたい

など意見がでた。各事業所での取り組みや提案を交え意見交換をおこなった。

○第2回 令和6年1月17日（水）参加者10名

情報共有

「各事業所の空き数、困りごと」

報酬改定の基本的な方向性について勉強会も含め意見交換をおこなった。

<生活介護連絡会>

○第1回 令和5年8月23日（火）参加者11名

意見交換、情報共有

「空き状況、困りごと」

- ・利用者が減った時、人員確保、医療の面で障がい施設は難しい、介護保険への移行があまりないなど各事業所での取り組みや提案をおこなった。

「加算について」勉強会を実施。

○第2回 令和6年2月14日（水）参加者13名

「諏訪圏域における強度行動障害支援の現状について」

「報酬改定について」

意見交換をおこないながら疑問点を解消

「次年度の活動について」

意見交換

【協議内容のまとめ】

- ・施設入所者の地域生活への移行について
体験の場があることが望ましい。住まいの問題だけではなくどのような生活を目指しているのか体験、見学、相談先との連携が必要。また、就労、(活動する場)、地域生活の維持・相談場所を整えていかないといけない。地域移行の選択肢についての情報提供が必要。同内容を地域生活支援拠点事業でも取り組まれていることから意見を共有し地域支援拠点事業で協議・検討をしていくこととなった。

【評価及び今後の課題】

- ・「性と権利の講演会」アンケート結果から福祉関係者、当事者の方々から、とても関心が高いテーマであることがわかった。また、学ぶ機会として福祉事業所の方も多数、参加されていた。「具体的な内容や成功事例について学びたい」、「性教育の重要性を認識し、これを進める必要性を感じた。」などの意見があり、今後、「障害者の性と権利」に関する研修を望む意見が多数あり、諏訪圏域でも取り組んでいくことが課題である。
- ・第1回グループホーム連絡会で「グループホーム空き情報を発信したい」という意見はオアシス HP で開示できるようになった。
- ・部会での協議を踏まえ、地域生活支援部会の運営方法や、協議会全体の在り方について見直しを行うことが求められている。これらの意見は、部会のあり方の見直しと協議会の活性化に向けた重要な指針となる。今後の協議会・部会運営において、これらの意見を参考にしながら、より効果的な議論が行えるよう検討をお願いしたい。生活介護事業所連絡会とグループホーム連絡会の今後の開催についても運営委員会で協議をお願いしたい。

【決算】

(令和6年3月31日現在) 円

科 目	収入額	支出額	差引金額	摘 要
今年度予算	50,000			
講演会		29,221		講師謝礼、配布資料印刷等
合計	50,000	29,221		
当期残額			20,779	

令和5年度 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 専門部会 報告書

就労支援部会

【部会長】 小林 浩人（諏訪公共職業安定所 職業指導官）

【副部会長】 大和 康広（岡谷市役所 社会福祉課）

小尾 一幸（就労継続支援 A 型事業所 J u m p i n ジャンピン）

【協議目標】

○本年度の就労支援部会は、「働く」をサポートする仕組みづくりを検討。

- ・「働く・働く準備」（就労継続支援 A 型、B 型、就労移行支援等含む）という視点に立ち、それぞれの立場（事業所・支援機関及びその職員、当事者）を通じて情報共有や相互理解が深まるような環境づくり（情報交換・座談会）を実施した。
- ・「障害者総合支援法 改正法施行後 3 年の見直し（障害者の就労支援・就労選択支援）」についての新たな動きが出た場合は部会として協議を行う。

【活動内容】

令和5年度 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 就労支援部会 事業実施状況

日時	開催場所	内容	テーマ
R5. 4.27(木)	諏訪市総合福祉センター3階交流ひろば	協議	本年度事業活動計画等について
R5. 7.11(火)	諏訪市総合福祉センター3階交流ひろば	学習会	就業中の当事者との座談会
R5. 9. 5(火)	諏訪市総合福祉センター3階交流ひろば	学習会	採用担当者との座談会
R5.12.21(木)	諏訪市総合福祉センター3階交流ひろば	学習会	ソーシャルワーカーとの情報交換
R6. 2. 6(火)	諏訪市総合福祉センター3階交流ひろば	協議	本年度事業活動の振り返り

※「障害者総合支援法 改正法施行後 3 年の見直し（障害者の就労支援・就労選択支援）」についての、新たな動きが出なかったため部会として活動ができなかった。

※上記事業については就労支援部会メンバーのほか、希望により、諏訪地域障がい福祉自立支援協議会等のメンバーの参加も可能とした。

【協議実施状況】

日時	テーマ	内容	実施状況
R5. 4.27(木)	本年度事業活動計画等について	協議	活動計画の承認
R5. 7.11(火)	就業中の当事者との座談会	学習会	就労中の当事者3名 参加者 79名
R5. 9.15(火)	採用担当者との座談会	学習会	企業3社 参加者 77名
R5.12.21(木)	ソーシャルワーカーとの情報交換	学習会	医療ソーシャルワーカー2名 参加者 31名
R6. 2. 6(火)	本年度事業活動の振り返り	協議	本年度事業活動の振り返り

※それぞれの活動においてはアンケートを取り部会内でフィードバックを行った

※アンケート結果は前回開示済み

【評価及び今後の課題】

○アンケート結果により次年度の事業の継続希望の意見が多く寄せられた。
 ○各事業に係る通知をメール等で事務局より事業所に対し発出するも、担当者に伝わっておらず「事業に参加できなかった」との意見を多くいただいた。次年度以降の周知方法を再検討したい。

【令和5年度決算】

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
今年度予算	50,000			
学習会		49,712		<学習会諸謝金> 7/11:就業中の当事者との情報交換・座談会 9/5:採用担当者との情報交換(当事者への向き合い方) 12/21:医療・精神科ソーシャルワーカーとの情報交換
合計	50,000	49,712		
当期残額			▲288	

※「諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 就労支援部会」における、諸謝金の支払い基準の目安は、国の「謝金の標準支払基準」（平成27年7月1日）に準拠し、部会長・副部会長が時間単価を決定。

相談支援部会

- 【部会長】 笠原 久美子 (オアシス)
【副部会長】 森田 美理 (Social Lab Globe)
青木 のな (信濃医療福祉センター)
野澤 仁志 (下諏訪町保健福祉課)

【協議目標】

諏訪圏域の相談支援体制の整理を行い、充実・強化のための取組について協議する。
相談支援専門員が考える地域の課題の収集と検証を行い、必要な仕組みづくりを協議する。

【部会開催と活動内容】

第1回 令和5年4月26日(水)

- ・令和4年度相談支援部会報告(案)、令和5年度相談支援部会計画(案)について
- ・基本情報とヘルプカードの見直しについて。コアメンバーで協議し、部会へ投げかけをしていく
- ・相談支援専門員が相談できる仕組みづくりについて。GWで意見交換

第2回 令和5年6月22日(木)

- ・障害福祉サービスに関する加算等について研修
→前回部会の意見交換にて課題にあがっていた計画相談支援・障がい児相談支援の加算について資料を基に読み深める。

第3回 令和5年8月24日(木)

- ・サービス等利用計画について。各自のサービス等利用計画書を基にグループで情報共有、意見交換を行った。

第4回 令和5年10月24日(火)

- ・アウトリーチより、インテークシートの記入方法について、GWでの意見交換
→インテークシートの利用徹底については行政連絡会に報告し各市町村に持ち帰り情報共有を行う。

第5回 令和5年12月12日(火)

- ・児童の相談支援体制の課題について
→療育支援部会、放デイ連絡会でも課題として挙がっている児から者への切れ目のない支援体制を築くため、日頃の困りごとや大変に感じていることなどについて意見交換を行った。

第6回 令和6年2月22日(木)

- ・身寄りのない方への対応について
- ・来年度に取り組む課題等の意見交換

協議のまとめ

- ・部会内で出た意見を基に毎回、テーマを決め情報共有や意見交換を行った。

【評価および次年度へ】

部会内で行ってきた意見交換の中で出た課題について、解決方法を見出すまでには至らなかった。今まで出た課題について、再度、整理を行い、優先順位をつけた上で課題解決に向けての取り組みをしていく。

【決算】

円

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
令和5年度部会費	30,000			
合計	30,000	0		
当期残額			30,000	

令和5年度 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 報告書

医療的ケア部会

- 【部会長】 笠原 久美子 (オアシス)
【副部会長】 坂本 恭子 (諏訪市社会福祉課)
今井 由美 (相談のポケット)

【協議目標】

医療との連携を図り、重症心身障がい児・者への支援の充実を目指す。

【部会開催と活動内容】 *医療従事者の部会員が多いためハイブリッド開催をする

第1回 5月8日(月)

1. 令和4年度医ケア部会報告書、令和5年度医ケア部会計画書の確認
2. 日常生活用具給付事業の用具の検討
3. 医療側の医療的ケア児等コーディネーターの役割についての提案と意見交換

第2回 7月24日(月)

1. 日常生活用具給付事業の項目の内容確認
2. 医療側の医療的ケア児等 Co の配置に向けた業務内容の検討

第3回 10月17日(火)

1. 今後の医ケア部会進め方について意見交換

第4回 令和6年2月27日(火)

1. 部会で今まで取り組んできた課題の整理と来年度の部会について

【協議内容まとめ】

これまでの成果

- ・日常生活用具給付事業の用具について検討をし、行政連絡会に検討内容を提出し、
行政で検討していくとの回答を得た。
- ・医療側の医療的ケア児等 Co の配置に向けて部会内で業務内容の検討を行ってきたが
検討段階では、国の補助金要綱も出ていないので、令和6年度からの実施はなしとなった。今後、情報収集、事業所への理解を進め、来年度以降実施するか検討していく。

【評価及び今後の課題】

評価

- ・部会で今までに取り組んできた課題の整理をする事によって、どのような課題に取り組んでいけばよいか意見交換ができ、今後、取り組んでいく事を整理できた。

今後の課題

- ・医療側の医療的コーディネーターの配置に向けての体制作り。
- ・当事者(家族)のニーズ整理・把握。
- ・諏訪圏域における医療的ケア児者の社会資源の分析・発掘。
- ・医療的ケア児者の災害時に向けた課題への取り組み。

【決算】

円

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
R5 年度部会費	30,000			
合計	30,000	0		
当期残高			30,000	

(令和6年3月31日現在)

精神障がい者の暮らしを考える部会

- 【部会長】 清水 利恵 (茅野市地域福祉課)
【副部会長】 湯本 淳貴 (諏訪赤十字病院)
関 真裕美 (あん相談支援室)
荒井 千恵 (オアシス)

【目的】

諏訪圏域における障害者（児）福祉計画に位置付けられた「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて必要な事項について協議検討をし、推進する。また、生活だけでなく就労や教育など広い分野を協議事項とする。

【部会開催と活動内容】

第1回 5月17日

- ・令和4年度部会報告と令和5年度部会計画について
- ・意見交換「精神障がい者の地域移行及び地域生活支援に向けたニーズ調査」の結果について

第2回 6月26日

- ・意見交換「ニーズ調査の結果に基づいた困りごとと地域の資源の確認と検討」

第3回 9月6日

- ・意見交換「ニーズ調査の結果に基づいた困りごとと地域の資源のとりまとめ」

第4回 12月7日

- ・意見交換「地域課題の整理と次年度の協議事項について」

第5回 2月7日

- ・研修会「地域生活支援ガイドブック作成の経緯と方法」参加者数: 21人
講師: 長野市障害ふくしネット 地域でいこう委員会 役員

【協議内容のまとめ】

○今年度の部会では4回に渡り、前年度に圏域内の入院病床のある精神科病院の協力を得て行った「精神障がい者の地域移行及び地域生活支援に向けたニーズ調査」の結果分析を行い、精神科に入院されている方々が退院したあとに、地域の中で安心して暮らし続けるためには、どのような支援や地域の資源が必要かを検討した。住まいのこと・日中の過ごし方・働くこと・お金のこと・日々の暮らしのことの5つのカテゴリーに分類し、それぞれの課題と解決策、すでにある地域資源と今後協議が必要なことについて意見交換を行い、課題の整理を行った。ニーズ調査で入院者が社会に出た後の暮らし方について、イメージが湧かない意見が多くみられたことから、資源の点検の必要性とともに地域で暮らすイメージがしやすいよう、ガイドブックなど地域資源の情報をとりま

とめたものがあるとよいのではないかとの意見が出された。

○第5回の部会（令和5年度 精神障害者地域生活支援研修会）では、「長野市障がいふくしネット「地域でいこう委員会」の役員5名の方にお越しいただき、地域移行支援ガイドブック作成の経緯と方法について、長野市地域移行コーディネートセンターの活動状況や地域の生活紹介動画上映など交え実践事例・取組み報告を学ぶ機会を設けた。研修を通じて、「映像はイメージがつきやすく、地域生活についての理解を深めるのに役立つのではないかと。諏訪圏域でも活用したい」との意見もあった。長期入院の背景が複雑なケースにおいて、他の事例を参考にしたり、地域の医療機関と福祉サービスが連携する上で、病院への働きかけ、地域移行に向けた流れや地域資源の情報が分かりやすくまとまっていることは支援者にとっても重要であるとの認識が共有された。

【評価及び今後の課題】

○令和4年度に「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の協議の場として部会が発足し、2年間で43名の部会員の方に参加頂き、精神障がい者が地域の中で安心して暮らし続けるためには、どのような課題があるのか意見交換を行うことができた。2年間の部会の活動を通じて、

- ① 地域住民の理解の推進
- ② 地域移行・地域資源の情報の集約・発信
- ③ 他機関・多職種が事例検討、課題研究を通じて情報、認識共有を図り、連携強化ができる協議の場の創出
- ④ 当事者・当事者家族の交流、情報共有の場のあり方

の協議・検討が必要であることが整理された。

【決算】

円

科目	収入額	支出額	差引金額	摘要
今年度予算	50,000			
研修会費		8,029		研修会講師弁当代
合計	50,000	8,029		
当期残額			41,971	

(令和6年3月31日現在)